

4:15 彼女はイエスに言った。「主よ。私が渴くことのないように、ここに汲みに来なくてもよいように、その水を私に下さい。」

4:16 イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」

4:17 彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には夫がない、と言ったのは、そのとおりです。」

4:18 あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

4:19 彼女は言った。「主よ。あなたは預言者だとお見受けします。」

4:20 私たちの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」

4:21 イエスは彼女に言われた。「女の人よ、わたしを信じなさい。この山でもなく、エルサレムでもないところで、あなたがたが父を礼拝する時が来ます。」

4:22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。」

4:23 しかし、まことの礼拝者たちが、御霊と真理によって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はそのような人たちを、ご自分を礼拝する者として求めておられるのです。」

4:24 神は霊ですから、神を礼拝する人は、御霊と真理によって礼拝しなければなりません。」

4:25 女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシアが来られることを知っています。その方が来られるとき、一切のことを



私たちに知らせてくださるでしょう。」

4:26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

この女性が乱れた私生活について話したときも、イエス様は罪を指摘するよりも、「あなたは本当のことを言いました。」と、その言葉を否定しませんでした。それでこの女性は、「あなたは預言者だとお見受けします。」と、イエス様に権威を認めました。もしも、自分が否定されたら、この女性はイエス様のことを否定したでしょう。人とはそういうものです。

この女性が話をそらそうとしたときでさえ、イエス様はそれを受け入れて、その上で真理に導きいれました。この女性がメシヤについて興味があると見るや、「私がそれです」とはつきと核心部分の宣言をなさいました。ここに福音の伝え方があります。

最後は福音をはっきりと伝えるべきですが、そこにいたるまでは、相手を思いやり認めて尊重して、相手の存在を尊ぶのです。これこそが神様の伝えたいことであるというのは明白です。なぜならイエス様は神様だからです。

この女性にイエス様が語られたように、私たちもまずは相手を尊重して、語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

